

連絡先: 〒732-0052 広島市東区光町2-9-24-303 全労連・全国一般 広島合同労働組合 TEL 082-568-5835
FAX 082-568-5845 Mail:rouso@hgoudou.com 参照URL:http://ww1.tiki.ne.jp/~okakenro/karoshi.htm

いのちと健康を大切に、働く人と社会を守る運動を

講演とパネル討論、分科会—中四国から96人が参加

第17回中四国ブロックセミナーは、6月13-14日高知市の高知城ホールで開かれ、13日はリアル73人、オンライン23人の96人が参加。岡上則子高知県実行委員会委員長（高知労連委員長）が「今、人員不足、高齢化への対応等で医療現場の負担は大きく、働く人はいのちと健康は脅かされている。これは個人の問題だけでなく、職場・社会の課題だ。セミナーで学びあい、いのちと健康を守る運動をすすめよう」と挨拶しました。



働く人はいのちと健康は脅かされている。これは個人の問題だけでなく、職場・社会の課題だ。セミナーで学びあい、いのちと健康を守る運動をすすめよう」と挨拶しました。



挨拶する岡上
実行委員長

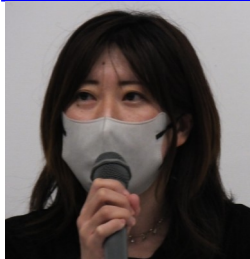
講演

「ノーリフティングで心身の健康を守る働き方へ」 下元佳子さんが講演・ナチュラルハートフルケアネット代表理事



続いて下元佳子さんがノーリフティングで健康を守る働き方への講演。ノーリフティングの目的は「心身に負担のかかる作業を見直し、安全に働ける職場づくり、安全に快適に暮らすこと」で「今も未来までも健康を守る」こと。利用者の靴の出し入れ、ゴミ・おしぼり回収時の作業姿勢の改善など用具の数ではなく、負担軽減の実態で見るのが大切。医療・福祉事業所に導入する上ではリスクマネジメント、教育、腰痛健康管理体制など組織づくりが重要。働く人と介護される人の安全・健康を改善することをPDCAサイクルで継続する事などが大切と話しました。

(右写真: 疲労回復の「これだけ体操」の指導を受ける参加者)



器の活用等で改善
リフト、ベット等と
研修・訓練、支援機

高知若草特別支援学校
肢体不自由特別支援
学校の取組と課題
発言…森田唯さん



消防職場から
発言…宮本昌平さん
高知県消防職員
連絡会会長

林病院でのノーリフト推
進委員会の活動と経過
発言…岸田拓直さん

パネルディスカッション
職場の腰痛対策の現状と
改善の取り組み



入浴介助の際の移動作業
を実演。器具の購入が利
用者が負担

生協ひろしま介護事業
発言…名越ゆきさんら
広島合同労組 福祉支部



腰痛による傷病・勤務制
限の声を受けプロジェクト
会議を設置。専門知識
の習得、自動洗浄機購入
などを
実現。
今後も
継続が
大切。

るが困めるに負用
。あ難めたな担者

パネルディスカッションでの報告と討論



しまね労連の徳永事務局長がコーディネーターを務め、講演した下元さんがアドバイザー。消防、支援学校、医療、介護職場の状況、取り組みと課題などを発言し（1面）質問、意見などが次々に出されて、討論しました。

非常勤講師自死裁判支援を

広島私立高校非常勤講師だった故後河内麻季先生が自死した事件について、民事裁判で不当な非常勤継続と使用者責任を明確にし悲劇を繰返さない闘いへの支援を遺族が訴えました。



第1分科会



労働安全衛生活動の基礎
講師…門田勇人さん
いのちと健康広島センター

第2分科会



職場におけるハラスメント
対策講師…榎本宏子さん
産業保健相談員・保健師

第3分科会



職場の問題事例を通して
みんなで解決策を検討！
報告と討論

第4分科会



進行…山田政志さん
高知医療生協労組

働くもののいのちと健康をまもる中四国ブロックセミナーの経緯と運営

一、ブロックセミナーの経緯（2027年は徳島県で開催予定）

1. いのちと健康をまもる全国センターは、安全衛生活動の教訓、経験の交流や活動家の養成などをめざし、1999年以降「働くもののいのちと健康を守るセミナー」として日本の東西で、05年からは各ブロック別で開催。中国ブロックでは05年から中国5県で開催されてきました。
2. 08年全国センターは、ブロックセミナーの発展、地方センターの確立の目標を方針に追加し、ブロックとして中四国を区分。この区分によることや幅広い経験や教訓などを得るために中四国ブロックとして開催し、2009年第1回高知、10年香川、11年山口、12年愛媛、13年広島、14年岡山、15年山陰、16年高知、17年徳島、18年香川、19年山口、20年（コロナ感染で中止）、21年愛媛、22年広島、23年岡山、24年鳥取、25年島根、26年高知で開催してきました。

二、ブロックセミナー実行委員会の運営

こうした経緯を踏まえ、運営は各県代表者による実行委員会の協議により、現地実行委員会で作業をすすめる体制としています。実行委員会は①セミナーの準備、②セミナーの発展、③各県の活動の交流、④地方センターの確立を位置づけて運営することをめざしています。